

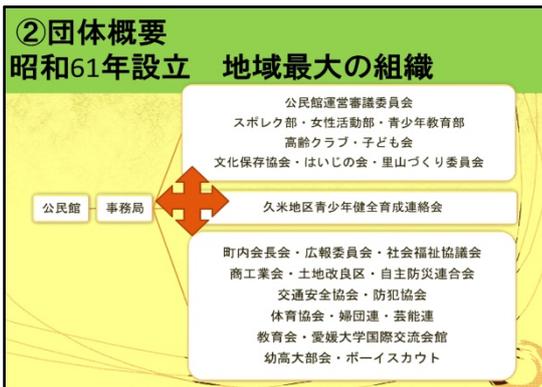
久米地区青少年健全育成連絡会（愛媛県）

活動地域の紹介

はじめまして。愛媛県松山市から来ました仙波です。私どもの団体は地域で
ぼちぼちと手づくりで防犯活動をやっています。久米地区自体は人口が約3
万、世帯数が1万 2,000 の町です。1公民館の下に 11 の町があり、11 の分
館があります。地区内には1中学校と4小学校、合わせて5校の小中学校が
あります。そして、久米公民館があり、一番もとになった久米小学校と久米中
学校、それから北久米小学校、福音小学校、窪田小学校というかたちで設
置されました。住宅街ですが、山もありますし、後ほど紹介する里山とか来住廃寺とか、自然も多く残っ
ている地域です。



団体の概要



私どもの団体自体は昭和 61 年に設立し、子どもに関わ
っている地域の団体が全て入っている地域最大 200 名
余りの団体です。組織構成員自体が全て子どもに関わっ
ていることと、5校の小中学校が事務局を輪番制で回し
ていることが特徴です。

また、久米地区が他と違うのは、防犯にも2つあると考
えている点です。1つには、直接的な防犯と言ったらい
いでしょうか。見守るとか見張るとか犯罪を抑止する直接
的な防犯、つまり見せる防犯。もう1つは犯罪が起こらな
い町をつくるという間接的な防犯。この2つを機軸に久米地区では防犯活動を進めています。

直接防犯について

松山市は平成 13 年度から見まもり隊を組織しました。その当時、私も松山市のPTA 連合会の会長を
しておりましたので、設立のときに各小学校、さあ、つく
ろうと発信し、13 年に久米地区の4つの小学校を母体
に PTA から見まもり隊をつくりました。その後、地道な
活動をしていたのですが、久米地区のように複合的な
小学校区になると、校区の境目とか、校区の弾力化も
始まったりして、なかなか一つ一つの小学校単位の見
まもり隊では活動が重なり合ったり、抜け落ちたりする
ので、21 年に久米公民館の中に4校の見まもり隊を、



とのことでした。

(ビデオ上映終了)

農園として貸し出しているだけではなくて、この下の運動公園では「里山キャンプ」と称して、小学校4年生の1泊2日の野外キャンプをしています。受付は小学校の先生がします。地区の4年生が、だいたい毎年 200 人くらい来るのですが、子どもたちの引率は4年生の時に里山キャンプを経験した中学生のボランティアがしています。中学生がリーダーで各班に分かれて、中学生の指導でテント張りを完成するというかたちのキャンプです。キャンプファイヤー自体は大学生が運営しています。1泊2日、何も無いところですが、4年生が 200 名参加。こういう事業を毎年しています。



2例目がよく行われている安全・安心マップですが、やり方が少し変わっています。

(ビデオ上映) えひめ教育の日広報ビデオ

—— なかなか見事な(マップの)できですね。

会長 そうですね。ここ福音小学校は今年で3回目です。

—— 狙いとしてはどういうことなんですか。

会長 来年、小学校1年生へ入学してくる子どもたちのために、あなたの通学路はここですよ。ここが楽しいところですよ。ここはちょっとだけ危険ですよというのを知らせてあげたいなということで作っております。

—— 自分たちが住んでいる町のこともよくわかりますよね。

会長 そうですね。

—— 通学路ごとの班に分かれて、いざ出発。今年はどんなマップができるでしょうか。

—— 緑のカードは何のカードなん？

小学生 きけんなところ用のカードです。

—— オレンジ色のみかんカードは町の素敵なところを発見して書き込みます。レモンカードは大人が気づいたことを記入します。

—— ここ、いまチェックされていたのは何んですか。

保護者 あそこの細い道のところ、ここは車がよく通るので、子どもたちが車とぶつかったりする恐れ



が。

—— 国道 11 号のすぐそばで交通量も多く、見えない危険もいっぱいありそうです。枝松バイパスの高架道路の下には、福音公園がありました。

小学生 福音公園は雨が降っても遊べるので、1年生にも遊んでもらいたいです。

—— その一方で……。

小学生 不審者に会ったことがあったので、なるべく新1年生に、会わないようにしてほしいです。

—— 中学生は地図係、カードの場所をそれぞれ地図に記録しました。

仙波 この事業にも中学生がリーダーとして入っています。

—— 学校に帰ってからカードを切り抜き、地図を仕上げます。いろいろな報告をし合って、みんな和気あいあい、地域の素敵などころ、危険などころを再発見し、みんなが仲良しになれた1日でした。

(ビデオ上映終了)

17年から継続的につくっているマップも20年度にはイラストマップにしました。製作したのは筑波大学の渡研究室の学生たちです。マップはマップを作ることが目的ではなくて、マップを作って地域をどうするかということが、うちの本当の目的です。先ほどのビデオでありました福音公園、高架下で暗い公園は、高校生たちに投げかけて改善の方法を考えました。

(ビデオ上映) 高校生制作のビデオレター

高校生 福音小学校の皆さん、こんにちは。

私たちは福音公園を素敵な楽しい公園にしようと考えています。

そこで公園にある柱に絵を描こうということになりました。

名付けて、柱で遊ぼう、公園アート。

みんなの手形を使って絵を描きます。

素敵な絵ができるよう、皆さん、よろしくお願いします。

3月19日、1時から福音小学校でやっているの、皆さん着てください。

よろしくお願いします。

(ビデオ上映終了)

こういう高校生の呼びかけに小学生が応えて、できあがったのが公園のむき出しのコンクリートに絵を描いたものです。小学生の子どもの手形でアートしました。

(ビデオ上映) NHK ニュース

—— 子どもたちの手形をつかったアート作品が松山市の公園に完成し、参加した子どもたちは東日本大震災の被災地への応援メッセージも書き添えました。公園には地元の小学校の児童や高校生など、およそ40人が参加し、児童の手形、およそ600枚を並べた縦4メートル、横3メートルのパネルを完成させました。これは人通りが少ない高架下の公園を人の集まる安全な場所にしよう企画されたもので、手形でタンポポや蝶をかたどり、カラフルなアート作品に仕上げました。

(ビデオ上映終了)

左側が23年に作った子どもの手形のアートです。右側が今年の3月に作成した感謝の木です。ここには1枚1枚、子どもたちの日ごろのお父さん、お母さん、学校の先生、地域の人に対する感謝のメッセージを書いてもらい1枚の絵にしました。

3つ目が一番言いたかったことですが、中学校1年生にはキャリア教育の一貫として、地域で仕事をしている人が学校に出向いて「仕事語り部講座」をしています。こういうかたちで地域からゲストティーチャーを探してきて学校に紹介し授業をしています。

2年生になると、職場体験を実施します。公民館が紹介するようになるまでは学校の先生たちが一生懸命探していました。もちろん久米にはデパート、百貨店はありません。でも、スーパーはあります。同じ売り子さんなら、地元のスーパーでいいのではないかという発想です。それを学校にぶつけて、現在、職場体験の8割は地元企業を中心に紹介しています。地域で子どもたちが職場体験をする。それを地域の住民が見る。子どもたちも地域で働いて、働いているところを見せる。そういう関係が出てくると、不思議とそれまで年間20件あった万引きが、この5年間は1件です。ここ3年間は0件です。それはそうですよね。自分が職場体験でお世話になった場所、そこでは万引きはしませんよね。



私が最初に近くのスーパーを口説きに行ったときには、「万引きの久米中学生が職場体験に来るの?」と言われました。「いや、公民館も入ってするのだからなんとかしてよ。」と言って頼んだら、その翌年から「久米中生、最近、万引きしないようになった。」と。狙った効果ではありません。思わず出てきた効果ですが、絶対にこれはいい万引き対策になると思っています。

そういう関係が久米公民館と各学校で続いて、今年の2月12日、久米公民館事業ですが、地域の人が集まる「健康ウォーク大会」というのがあります。そこに実は久米中の2年生全員が少年式に授業として参加しました。お休みの日です。日曜日です。少年式というのは、昔で言ったら元服の式ですが、愛媛県では伝統的にずっとしています。

地域の人もびっくりしました。200名を超える中学生が授業として公民館行事に来る。そういうなかで日ごろいろいろな関係を子どもたちとつくっている地域の人と、もう1回、再確認をして、こういうかたちの事業をしました。地域の方は4kmか8kmしか歩かないのですが、中学生は少年式ですから、8kmを行

って、解散式が済んでもう1回り、2回りするというおまけもつきました。

そのあと久米中の生徒会が、私たちも卒業記念に何をしたらいいかという話を自分たちでした結果、私たちは地域に育てられたのだから、地域の公園の清掃を私たちだけでしようになりました。聞いたときにはびっくりしました。地域は清掃活動をいろいろな団体に声をかけて住民もしています。でも、中学生が自分たちの生徒会で話し合っ、お世話になった地域の公園を清掃しようというところまで、逆に言うと、子どもたちも目覚めてきた。地域を意識すると、子どももずいぶん変わるものだなという報告をさせていただきました。



質疑応答

●質問 仕事の体験教育で何年生をどういったかたちでしている教育なのか、どのくらいの生徒数でやっているのか伺いたと思います。

○回答 1学年 300名弱で2カ年の計画です。1年生には仕事語り部講座、これは地域に住んでいるいろいろな職業の人の話です。子どもたちにアンケートを取って、どんな職業の人の話を聞きたいのか調べ、見つかった人を学校に派遣します。講師の方は大工さんもいれば、警察官、弁護士さんもいます。いろいろな職業の人を1年生の約50分の授業の中で講演してもらっています。まず1年生で話を聞いて、2年生になると、実際に職場を訪問します。8割は地元にある企業で体験しています。特に、最近力を入れているのはコンビニです。

●質問 大変地域に根ざした活動を展開されていますが、受け手側である地域の方々は、これらに対する評判はいかがですか。

○回答 3つ、変わりました。まず1つは、それまでまちづくりは大人がするものだと思っていたのですが、子ども目線のマップを作ることによって、子どもの目線に合わせたまちづくりを考えてもいいのではないかという意識に変わったことです。

2つ目は、公民館は成人教育の場と言われますが、子どもは学校教育との協働にシフトしたので、学校と公民館の敷居がぐっと低くなりました。互惠関係というか、相互乗り入れをしながら、少年式のように公民館事業に学校授業が入り、埴輪づくりには学校授業にゲストティーチャーが行って、埴輪のつくり方を教えるというかたちです。

3つ目は、公民館はいろいろな社会教育団体が傘下にあります。それぞれが子どもを中心に結びついたので、有機的な総合性が少し出てきた。

この3つが今紹介した活動などの中から地域が大きく変わった点かなと思っています。